

自然学習資料センターの移設と今後の予定

柴 正博

自然史しずおか本号の巻頭言で、天岸理事長により、ふじのくに自然系博物館基本構想検討委員会の構想案と、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」の設立に関する概要が述べられています。ここでは、それと多少重複するかもしれませんが、今年度の自然学習資料センターの移設に関する経緯と、これからの移設と博物館整備に関するスケジュールについて紹介します。

今年の1月25日の静岡新聞に「『地域学』を創造へ 県立自然系博物館構想検討委が大筋了解」という記事がでました。この記事は、その前日の1月24日に開催された第6回検討委員会の報告ですが、この委員会では構想案の大筋が了解されて、この会議で出された修正を行い、3月に構想案が提出されることになりました。

構想案の原案では、博物館の名称を「ふじのくに地球環境史ミュージアム」として、自然史と環境史を研究領域とし、調査研究と収集保管、展示・情報発信、教育普及の4つの機能を充実させる博物館にして、平成27年度に開館、平成29年度以降に登録博物館とするということが盛り込まれています。

また、この委員会では平成26年6月に配置される研究職3名（地球環境史、地質・岩石・地震、生命・昆虫）の募集が開始されたことが報告され、静岡南高への移転供用後の7月から研究職3名を含む県職員で運営と博物館整備を行い、平成27年度からはさらに基本構想に謳う3分野の研究職の追加を目指し、館長も含めて正式な博物館にして開館することも明らかになりました。

2月3日の静岡新聞では、「博物館準備 県が新部署 14年度組織改編 文化・観光部内」という記事が掲載され、自然系博物館の担当部署が明らかになりました。新聞記事によれば、富士山世界遺産センターや県内の大学、研究機関との将来的な連携も視野に、現在の企画広報部企画課から「ふじ

のくに地球環境史ミュージアム整備課」として独立させ、学術分野を所管する文化・観光部内に置くことになりました。

そして、2月15日の静岡新聞では、「自然史系博物館実現大詰め 来年春開館へ5億5200万円」という記事が踊りました。記事では「来年度春の開館に向け準備を加速させる。1986年度に調査が始まった県立博物館構想は、約30年を経て大詰めの段階に入る。」と書かれています。まさに、私たちにとっても、NPO自然博ネット（故池谷仙之理事長のもと2003年3月に設立）の前身である自然博推進協が、故伊藤二郎先生のもとに「静岡県に自然史博物館を！」を掲げて1995年に設立してから、約20年間の活動が、今まさに実ろうとしています。

昨年度開催された「静岡県自然学習資料センター整備方針検討委員会」では、平成26年度内に静岡県自然学習資料センターを開所するということが謳われていたにすぎませんでした。今年度開催された基本構想検討委員会では、昨年夏すぎから博物館開館に向けての県の具体的で迅速な取組が始まり、12月25日に開催された第5回検討委員会では、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」を平成27年度に開館し、平成29年度以降に登録博物館にするという原案が提示され、1月には基本構想に謳う6分野のうち3分野の研究職の募集をすることが明らかになりました。

そして、平成26年度の県当初予算には、資料センター整備で予定されていた額に加えて、2億5000万円増の5億5200万円が計上され、今年度の静岡南高の改修整備工事に引き続いて、まさに博物館の設置整備が具体的に行われることになりました。

さて、そのスケジュールですが、平成26年1月から6月末まで、静岡南高の改修工事が行われ、すでに現在実施されています。同時に、平成26年3月までに部屋の配置や棚の設置、備品リストなどの詳細が作成され、

平成 26 年 4 月頃に引っ越し業者決定し、4 月～6 月に標本など資料の箱詰め作業が当 NPO も協力して行われます。棚などの備品は、7 月に納品設置予定で、平成 26 年 7 月に資料などの引っ越しが行われます。その後、改修された静岡南高で、NPO は資料を箱から出して整理を行い、資料保存事業および資料活用事業を継続して実施します。

引っ越しが始まる改修された静岡南高では、7 月から、研究職を含む県の「ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課」の職員が、平成 27 年度の博物館開館を目指して博物館整備の業務を行うこととなります。

博物館の展示については、平成 27 年度の開館時には簡易的な展示をつくるものの、本格的な展示と博物館の出入口やその付近の外構工事は平成 26 年度に設計が行われ、平成 27 年度に工事がされて完成する予定です。

このように、博物館整備のための多くの業務が、平成 26 年度と平成 27 年度に集中しま

す。そして、その仕事は、実際にはまだ博物館の運営や活動の内容など具体的なことがほとんど決まっていない状況で、さらに新しい施設で設備も不十分な中で行われるものです。そのため、当 NPO のかかわりも含めて博物館整備については、今後多岐にわたりさまざまな問題が出てくると思われます。

しかし、県立博物館を整備し運営を開始する今年と来年は、推進協結成から約 20 年間の活動のまさしく大詰め的重要な時期にあたります。これからの博物館整備に係る 2 年間で出てくる多岐にわたる問題を、ひとつひとつ解決していくことが、将来の博物館の運営や活動の基礎になっていくと思われます。

博物館が開館した後に、当 NPO がどのようにそれにかかわるかはまだ今後の問題として、その新たな博物館を私たちが望んでいた博物館に近づけていけるよう、県の整備課の方々と強く協力し、その基礎を築いていくことに努力していきたいと思ひます。

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度以降
移転	オープン		登録博物館
研究職員の採用			
博物館活動における NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワークとの協働 (収集保管・教育普及事業委託の継続)			
市民研究員、客員研究員、ボランティア制度等の推進			
博物館機能の充実 (収集保管、調査研究、教育普及、展示・情報発信)			
簡易展示制作			
展示設計	展示制作	常設展示、モバイル展示の随時更新	
施設改修工事			
外溝設計	外溝工事		

基本構想検討委員会に提案された今後のスケジュール案 (県の HP より転載)